

スクールコモンズ

教室前のメディアスペース

学校は、博物館である。

教室の外が大切

子どもたちを待ち受け、活動に誘い
能動的な姿勢を生み出す



廊下を歩くたびに、好奇心を引き出す仕掛けがある。⁴⁶

ワクワクする校舎が、同志社中のシンボルです。

スクール commons : 学校空間全体が学習・交流の場



追手門中学校・高等学校



追手門中学校・高等学校



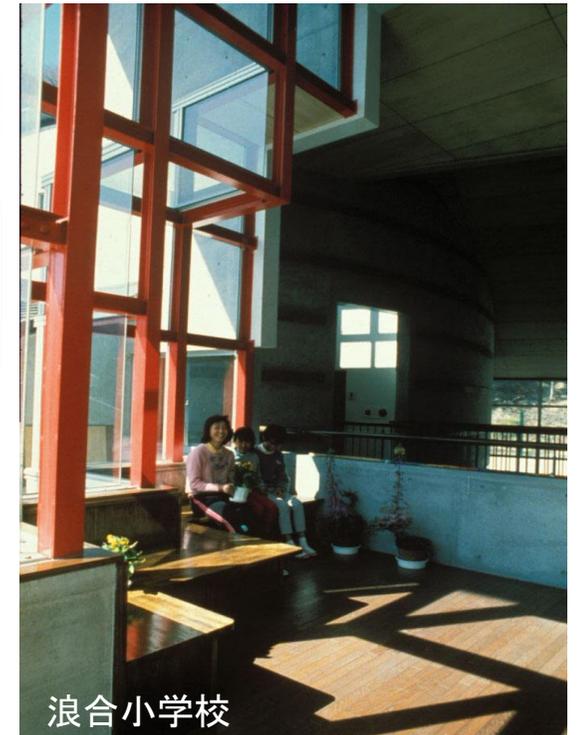
武蔵野市立千川小学校



広島県立叡智学園中学・高等学校



立命館中学・高等学校



浪合小学校

スクール commons : 学校空間全体が発表・集まり・交流の場



スクールコモンズ：学校空間全体が自分の居場所

ソファー/座る場所



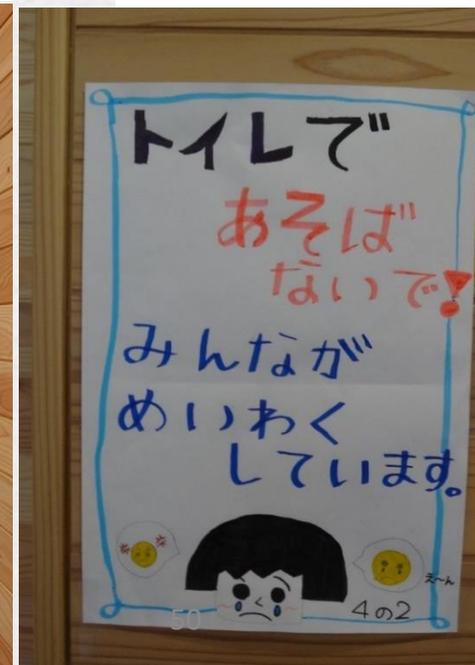
トイレ、水回りの快適化

トイレは「居室」

大きな窓

明るさ・換気

4K	→新4K
きたない	きれい
くさい	かいてき
くらい	けんこう
こわい	こうりゅう



健康教育の拠点：保健室・相談室



保健室は健康の発信基地
呉市立川尻小学校(広島)



相談室はまず心をほどける環境
カリタス女子中学校・高等学校(神奈川)

義務教育学校：施設一体型の小中一貫教育校

1 義務教育学校とは

小中一貫教育を目的とし、一人の校長、一つの教職員組織の下、義務教育9年間の教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する。地域ぐるみの教育が意図される。2016年度から制度化。

2 義務教育学校のメリット

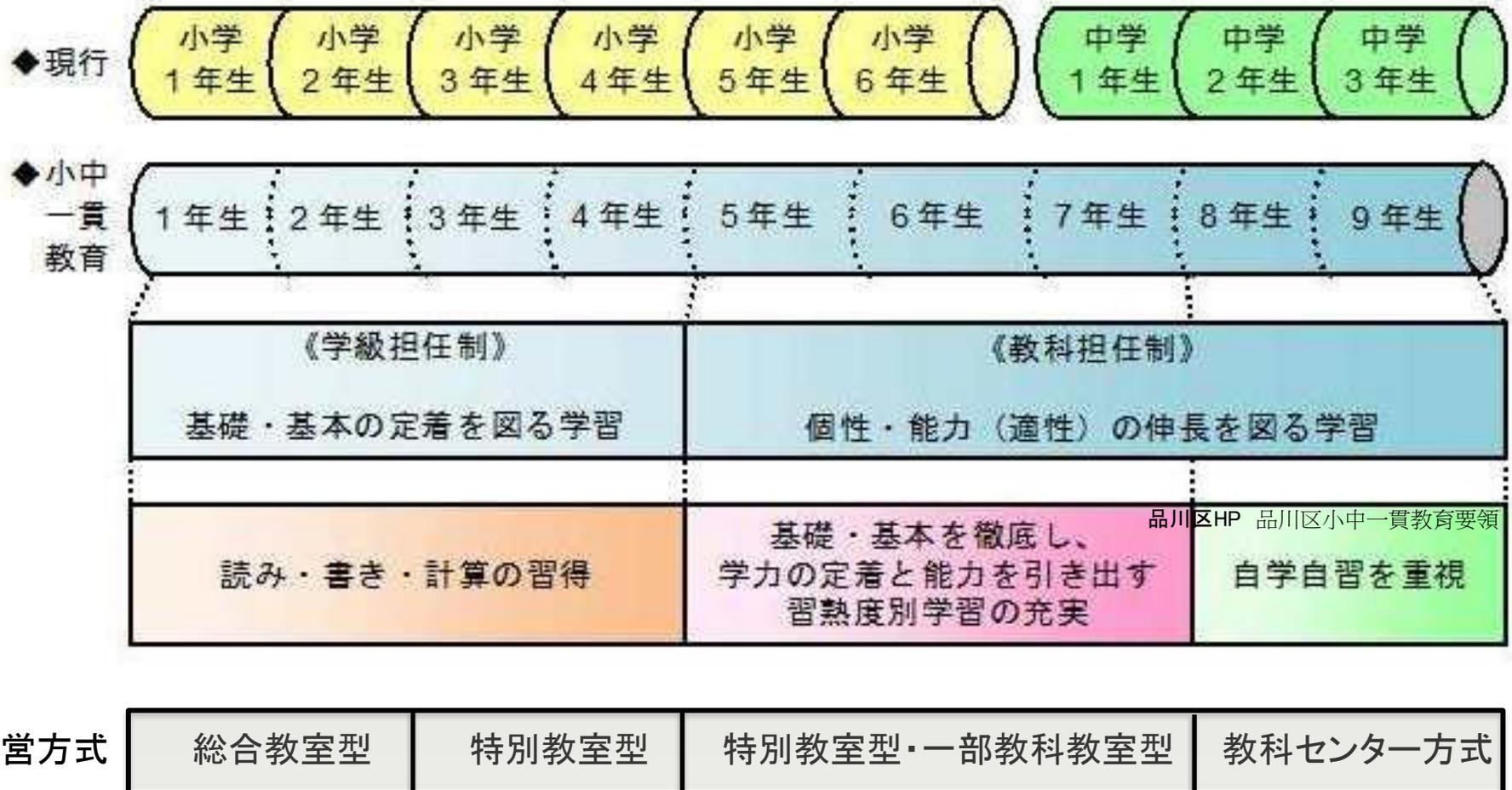
- ①「中一ギャップ」の解消が期待できる。（中学生の不登校の減少など）
- ②小中の交流がこれまで以上に促進される。
- ③自由な教育課程の編成ができ、「4-3-2」や「5-4」などの学年段階の区切りを設定できる。
- ④9年間を見通した指導、小学校での教科担任制や小中学校での乗り入れ指導等が可能となる。
- ⑤校務の効率化や質の向上につながる。
- ⑥PTA組織の一本化が図られる。
- ⑦施設の共用により施設の多様化が図れ、教育機会を充実できる。

3 義務教育学校の課題

- ①人間関係が固定化されやすい、高学年におけるリーダー性育成の機会が減るという指摘がある。
- ②転出入する児童生徒への対応が必要。教員は、小中両方の教員免許が必要になる。

参考:「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」平成28年12月 文科省

小中一貫教育の取組みと施設



義務教育学校：子供同士、学校と地域の交流スペース

異学年交流 集会・発表・行事

児童会・生徒会、部活動

⇒ 図書室・学習情報センター、特別教室

食堂・ホール

⇒ 移動空間・トイレ・流し、屋外空間

⇒ お互いが見え合う関係

⇒ 交流の場となるアプローチ



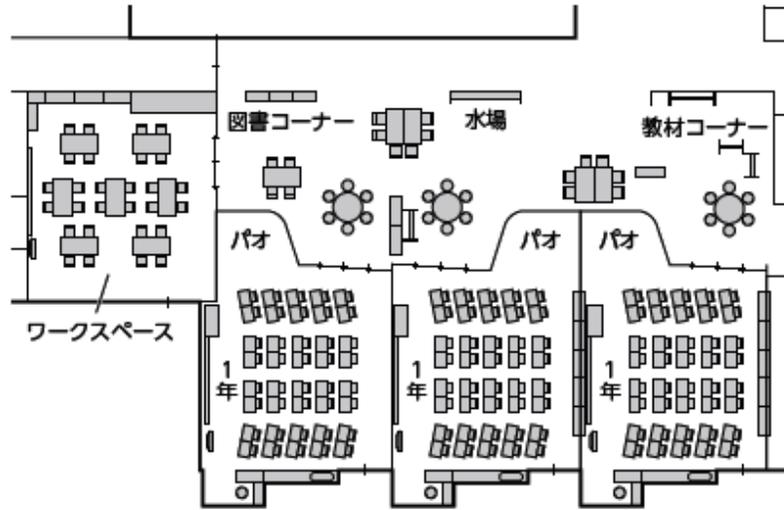
富山市立芝園小学校・中学校



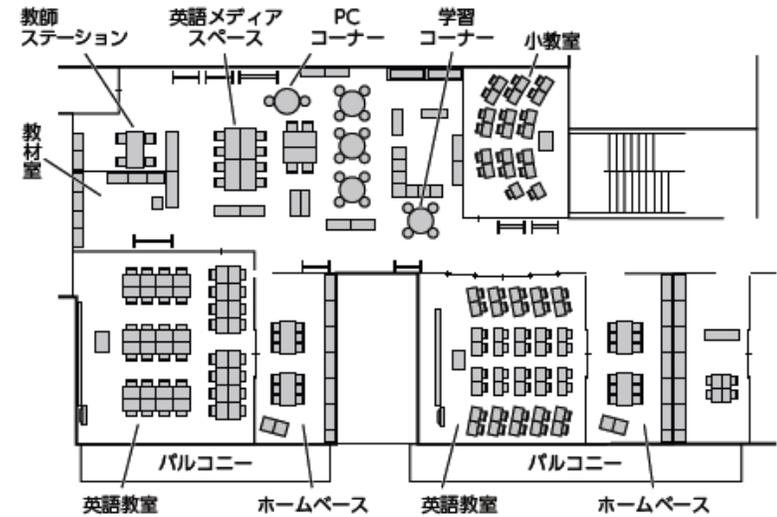
川崎市立はるひ野小学校・中学校



義務教育学校：各学年段階の成長・特性に応じた教室まわりの構成



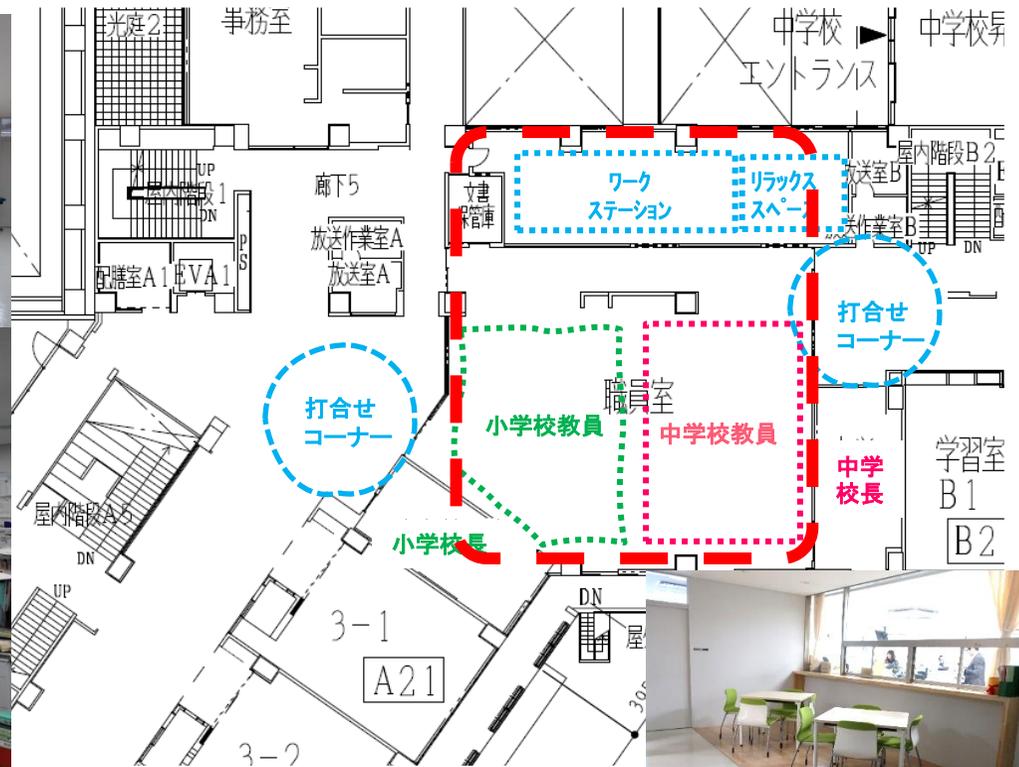
1・2年：総合教室型



8・9年：教科センター方式



義務教育学校：学校運営の一貫性を確保する管理諸室



義務教育学校：学校の中心にある、全校の交流の場となる図書館

